

小報共有 (2枚 非管理文書)

東京電力株式会社

NISA向けプレスリリース プラント状況 (本店レク) 議事メモ  
4-4

柳 統  
柳 河

9/20 13:58  
柳 河

日時：平成23年9月20日(火) 11:00~11:30

場所：東京電力本館3階大会議室

先方：記者約20名(カメラ3台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

#### 配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (水位・圧力・温度などのデータ)
- ・ 福島第一原子力発電所 淡水化装置 (RO) の水漏れ状況

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

#### 質疑：

Q. 2号機原子炉建屋への注水量を増やしているが、3号機ほど冷えていないことについて、どのように考えているのか。また、今後注水量をどのように変化させていくのか。

A. 2号機原子炉の温度は下がり傾向ではあるが、3号機の温度変化と比較して、顕著に冷えている状況ではない。2号機圧力容器下部の温度は上下しながらも、全体的な温度は低下傾向である。2号機と3号機で冷え方が異なるは燃料の損傷状況が異なっているからと思われるが、詳細についてはわかっていない。今後、注水量を増やすといった具体的な計画はないが、もう少し注水量を増やして傾向を観察したいと考えている。

Q. 2号機について、炉心スプレイ系からの注水による冷却効果はどのように評価しているのか。

A. 3号機ほど効果が高いとは言えない。今後もう少し注水量を増やせば冷えてくるかと思うが、実際にやってみないとわからない。

Q. 3号機の冷却効果が高いのは、3号機は燃料が上の方にあり、2号機は下まで落ちてしまっていると言うことか。

A. 詳細はわかっていないが、炉心解析の結果では、3号機は比較的、半分程度は炉心支持板よりも上に燃料がある。

Q. 今後の冷温停止へ向けた課題は。

A. 注水する仕組みと水処理システムの二つの面が課題であると考えている。注水については、様々なバックアップシステムで対応しているが、確実に運転を継続し、信頼性を高めて行く必要がある。今後、定期的なメンテナンスを実施するとともに、以前水漏れのあったカナフレックスについても金属配管へ交換を行い信頼性向上に向けた対策が必要となる。

水処理についてはここ数週間ほど安定的に運転できており、順調にタービン建屋の水位が下がっている。注水量を増やすためには、水処理が安定的に動くことが前提条件となるため引き続き安定運転に努めたい。今後はサリーの方が運用しやすいので、A系を投入した状態での運転を考えている。

Q. 放出放射能の抑制はどのように評価しているのか。

A. 本日の道筋の公表で説明したいと考えているが、まだ、評価について精度面で足りていない部分があるため、今後精度を高めて行きたい。

Q. 冷温停止の条件として原子炉の温度が 100°C 以下と放射性物資の放出量の管理に加え、水処理装置の安定的な運転も一つの条件となるのか。

A. 直接的な条件としては原子炉温度 100°C 以下と放射性物質の抑制になるが、水処理装置の安定的な運転についても付帯条件としては考えられる。これらが不安定な状況では避難されている方々が戻れるとは考えていない。今後、原子力安全・保安院が安全確保の考え方の指針を示されると聞いているので、それに従って設備の多重性や信頼確保を検討したいと考えている。

Q. 放射性物質の放出抑制のため、1号機原子炉建屋へカバーを設置しているが、他の号機はカバーの設置を実施するのか。

A. ステップ2の完了条件には入っていない。3, 4号機については全体工程のバランスを考慮して、ガレキを撤去して使用済燃料プール内の燃料取り出しを早期に実施した方がよいと判断し、カバーがない状況での放出抑制を管理していくことになる。

Q. 一部報道によると今までの汚染水の処理量と滞留水を比較すると3万トン程度ずれがあり、それらは100トン/日程度の地下水からタービン建屋にわき出ている分とのことだが、東電としてどの程度の地下水がタービン建屋に流入していると考えているのか。

A. 8月頃から水処理システムが比較的安定して運転できるようになった。そこから判断すると大体200~500トン/日の流入量があると考えている。この分の地下水量が滞留量と処理水のミスマッチ量と考えている。

Q. タービン建屋のひび割れ部などから流入してきていると考えているのか。

A. ひび割れやトレンチの開放部等から流入していると考えられる。以前、3号機コントロール建屋から地下水が流入していた事例等もある。

Q. 地下水が流入していることが汚染水の処理にどの程度影響すると考えているのか。

A. 今のところ安定的に水処理が進んでおり、1,000トン/日程度の水が処理できているので、現時点で困難な状況になるものではないと考えている。

一方、これまでにもお伝えしている通り、処理をすればするほど廃棄物は増えるので、処理のスピードを抑制する必要などもあると考えている。

また、建屋側の水位が下がれば地下水側との水頭差により、地下水が流入してきやすい状況になるので、O.P. 3,000mm程度で滞留水の水位をコントロールする必要もある。

Q. 地下水の流入量が200~500トン/日の試算は雨水等から試算したものか。

A. 流入量は一定しているものではなく、天候によって異なる。また、直接雨水が入る場合、間接的に入る場合等によっても流入量は異なる。降雨があれば増える傾向にあるが、相関関係を正確に把握しているわけではない。

Q. 全面マスクのフィルターが外れた件について、簡単にフィルターが取れるようになっているのか。

A. ネジで締め込むタイプなので簡単には取れないと思う。ねじこみ不足があったのか等、詳細は確認しているところ。

以上